

「おがわ学の構築・実践」—学校と地域の未来を創ろう！プロジェクト—

現状と課題

人口減少・・・小川町人口H8:約3万8千人→R2:約2万9千人
 高校統廃合の危機・・・生徒数H8:約960人→R2:約590人

- 地域の伝統校の存続は、地域の活性化とも深く関連
- 学校と地域が共通認識を持って、教育に取り組む必要性

取組

学校と地域が協働し、各教科の中で地域資源を活用した課題解決学習を導入

「おがわ学」→【生徒：資質・能力の向上】+【地域：魅力化】

地域への愛着・誇りを育む教育

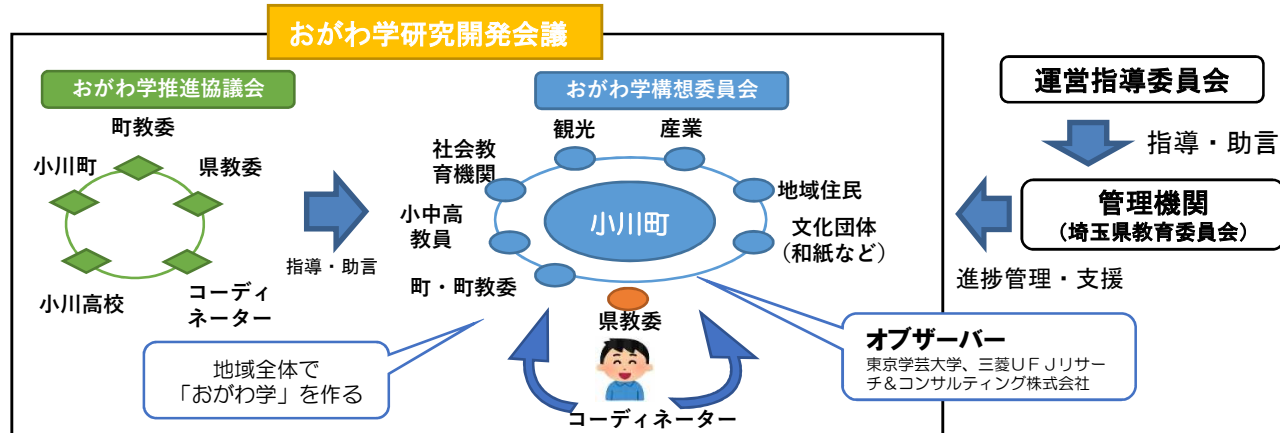
地域の文化・伝統への再注目・地域の課題への問題意識

未来を切り開く力の育成

探究的な学びを通じた課題解決力の育成

研究開発体制

- おがわ学推進協議会（年4回実施）
小川町・町教委・県教委・小川高校・コーディネーター 計5名
- おがわ学構想委員会（年4回実施）
小川町・町教委・小中高教員・PTA・地域住民・社会教育機関・文化団体・産業界・観光関係・県教委（教育事務所含む）・コーディネーター 計32名程度
- おがわ学担当者会議（年9回実施）
構想委員会の作業部会 計22名
- おがわ学運営指導委員会（年3回実施）
学校教育に専門的知識を有する者・学識経験者・関係行政機関の職員等 計5名



令和元年度の目標



- 1 小学校、中学校、高等学校の連続した**指導計画案（骨子）**の作成
- 2 各校種・地域・行政の連携と**情報ネットワーク**づくり
- 3 本年度**先行実施科目**から次年度の授業実践に向けた課題を分析
- 4 地域との連携による探究的な学びについての**職員研修会**の実施

取組状況

- 1 小中高を通し、「産業」「自然」「歴史」の3分野の指導計画案（骨子）を作成。目指す児童生徒像、育成する10の資質・能力を設定
- 2 和紙、酒蔵等の伝統産業や有機農園等が授業づくりに協力
- 3 「総合的な学習の時間」3科目、選択科目1科目で、地域との協働による授業を展開。探究的な学びの要素の取り入れ方、評価等を検討
- 4 年間5回の職員研修会の実施
- 5 先進地視察（島根県教育委員会、海士町教育委員会、島根県立隠岐島前高等学校、岡山県立瀬戸高等学校、岡山県立和気閑谷高等学校、第6回SCHシンポジウム（山形県））

成果と課題

成果

- コンソーシアム体制を確立し、目指す児童生徒像や育成する資質・能力等の設定から授業づくりについての議論を重ねることができた。
- 各校種・地域・行政の連携が密となり、目指す児童生徒像の共有ができ、地域資源を活用した授業づくりなど「おがわ学」の基盤を確立することができた。

課題

- 各教科に探究的な学びや地域課題解決学習を取り入れた授業づくりとテキスト作成。
- 地域と学校が目標を共有した指導計画案（骨子）の再整理や評価基準の検討。
- 「おがわ学の構築・実践」を通してカリキュラム・マネジメントを実施していくための体制づくり。